

## 第二期 第2回秋田いきいきワーク推進会議 議事概要

○日 時：令和5年3月15日（水）15:00～16:45

○場 所：ルポールみずほ「ききょう」

### ○議 題

- ・第二期「秋田いきいきワーク推進会議取組方針」を踏まえた現状と課題、連携等について

### ○議事概要

秋田労働局及び東北経済産業局から資料に基づき説明を行い、その後、出席者との意見交換が行われた。意見交換の概要は以下のとおり。

- ・秋田県は人口減少が全国最速で進んでおり、人手不足が深刻な状況。労働力不足対策として、採用者の確保拡大と離職者の抑制、生産性の向上、収益力のある魅力ある職場づくりが重要。
- ・正社員採用では、新卒者が集まらず中途採用者が定着。Aターン希望者との面談、Webによる応募など、セールスポイントの伝達も重要であり、行政のバックアップもお願いしたい。
- ・生産性の向上については、DX、IT化、デジタル化が不可欠と考えているが、中小企業でデジタル技術をうまく活用できているのは一部に留まる。DXの本質は機械を入れて効率化するという小手先のものでなく、本来はビジネスプロセスを根本から見直すことであるが、この捉え方ができていない。人手、ノウハウ、資金不足で推進していく人がおらず、どこから手を付けていいのかわからないのが現実。内省化して自分の会社でやるのは非効率的で、外部に出して効率的にできるようなサポートも必要ではないか。
- ・トラック業界における2024年問題など働き方改革の取組に苦労している業界もある。DXの導入、設備投資の促進等による生産性向上は働き方改革の両輪。業界として情報提供に注力していくが、企業支援に力を入れていただきたい。
- ・多様な人材確保支援について、秋田の課題解決には賃金水準の向上が必要。中央との格差が広がらないよう取り組む必要がある。
- ・秋田県の最低賃金は全国最低であるが、民間のシンクタンクによると、女性の生き方に対する寛容性も全国で最低という結果が出ている。不寛容さをしっかり改善していかないといけない。女性活躍が進まない要因は、家庭での負担の偏りとされている。自殺者も5年前と比較して女性が増えている。家事・育児・介護負担がありながら、職場でも輝けとあおられている。抜本的な解決が必要。
- ・女性活躍の推進に関するセミナーを開催した際、「管理職を希望しない女性が圧倒的に多いことが壁になっている」「女性もバッテリーボックスに立つ機会を与えて、職場が背中を押してあげる必要がある」などの指摘があった。
- ・若年女性の流出という課題があるが、女性を採用したくても女性のみ求人できないと思っている企業は多いと思う。ポジティブアクションなら可能であることをもっと発信していくべきではないか。
- ・女性活躍にアンコンシャスバイアスが壁になっているが、具体例を示したチェック項目などがあれば、取組が進みやすいのではないか。
- ・女性活躍には長い取組が必要となるので、関係機関が連携を深めて粘り強く取り組んでいくことが必要。